

留学生の声

塾内在籍校・学年(派遣時)	女子高等学校 2年
留学先校名	The Taft School
留学期間	2019年 9月から 2020年 5月まで

どのようなことを期待して渡航しましたか？

『今しかできない』ありとあらゆることに挑戦できることを期待しました。例えば、学習面では『模擬国連』です。模擬国連とは生徒が国連代表国の大使になりきり、実際の国連会議を模擬する活動です。将来国際情勢に関連する仕事に就きたいと考える私にとってピッタリだと思い、受講しました。様々な国際問題についてリサーチを進め、会議では代表国の立場から政策を考え、演説をしました。年に数回、Princeton や Yale 大学で開催される会議に遠征し、世界各国の学校から集まった他の学生とも深い議論をすることができました。

また、季節によって違った課外活動ができることも大きな魅力でした。1年を通して色々な活動を試すことで、従来の趣味を極めつつ、全く新しい得意分野を構築することを楽しみにしていました。

留学に向けて、どのような目標を立てましたか？

できるだけ充実した留学期間を送りたいと考えていたので、学期ごとに学習面、生活面、性格面に分けて10個の目標を立てました。加えて、毎週日曜日に次週の短期的目標を3つ、カレンダーに書きました。留学全体を通じて最も意識したことは、『後悔しないこと』、そして『楽しむこと』の2つ。常にベストを尽くす一方で、やりすぎて楽しみを失うことはないように心がけました。どんなに課題が溜まっていても、息抜きの時間を忘れない。自分なりにメリハリを意識して有意義な留学期間を送ることができました。

留学先では、期待どおりの生活を過ごせましたか？

短い期間ではありましたが、想像以上に濃い1年間を過ごせました。ボーディングスクールの閉鎖的環境を感じさせないほど温かいTaft Communityに囲まれて、本当に自分の限界まで伸び伸びと好きなことに挑戦することができました。心地よいと同時に周りの生徒や先生方が驚くほど積極的で、授業中のディスカッションの際は鋭い質問や主張をぶつけてくるので、良い刺激になりました。

課外活動は何をしていましたか？

1学期にはクロスカントリー（長距離走部）に入りました。始めは週6日間、毎日最低でも35分は走り続ける過酷なトレーニングと既にある程度出来上がったチームの輪に入っていくことがとても辛く、挫折感を味わいました。しかし悔しさをバネに、公式練習がない日曜日でも走ったり、寝る前に筋トレを行うことで徐々に他のチームメイトとの差を縮め、最終的には23人のチームで一番遅いランナーから、4番手まで登りつめることができました。クロスカントリーを通じて、ランニングという新しい趣味を構築するだけでなく、身体的にも精神的にもタフに成長することができました。

2学期には、バスケットボールの2軍チームに入りました。1軍は経験豊富なメンバーが多いのに比べ、2軍は経験者と素人が半々でした。そのため、週2回対抗試合があるそこそこCompetitiveなチームではある一方、勝敗のみにこだわらず互いの団結力やスキルの向上に集中できました。始めは失敗や、勢いあるボールを恐れて自信を無くし、パスを受け取るだけでも精一杯でした。しかし、仲間と練習を重ねることで、見よう見まねで様々なテクニックを身につけることができました。

アドバイザーとの面会がありましたか？

私のアドバイザーは模擬国連の先生でした。とても明るくて面倒見の良い母親のような存在で、常に私を見守ってくださっていました。普段の授業で顔を合わせるだけではなく、月に1度は必ずマンツーマンで面会をしていました。慣れない多忙なスケジュールや部活動でチームメイトに追いつけない焦りなどで新学期早々ストレスが溜まっている、と相談をすると、得意のジョークを交えて、落ち込んだ私を励まして下さりました。また、寝不足が続いている私の健康状態を心配して下さることもありました。家族と離れていても、自分をここまで気にかけてくれる人がいる。Taft Communityの優しさを、彼女を通じて本当に感じることができました。

授業について

授業は少人数制で、半分は先生による講義、残りの半分は生徒主体のアクティビティというタイプのものが多かったです。

英語：授業の前半で課題本のあらすじや背景を学び、後半は本の中で重要なテーマについて、現代社会と結びつけて証拠を基に **Harkness Method** を使って話し合いました。**Racism** や **Gender** などセンシティブなトピックを扱うこともあり、他人を傷つけなくしていかに自分の主張を通すかを学ぶことができました。

模擬国連：国際連合に属する様々な委員会が実際に行う会議を模擬する授業でした。まず先生が決めた委員会で取り扱う一つの課題について、与えられた代表国の主張及び外交関係について情報を集めました。その後の模擬会議では、集めた知識を活かしてスピーチをし、最終的には他の加盟国とも協力して決議案を制作し、投票しました。個人の視点ではなく代表国の立場、外交関係を考慮しなければいけないことにもどかしさを覚え、国としての責任を常に背負って職務を行う政府関係者の苦労を経験しました。また、他国と妥協しなければ決議案は可決されないため、大半の法案は抜け道だらけの大まかなものにならざるを得ない事実を知り、国連という組織の『限界』を痛感しました。

コーラス：学校創立時からの合唱団です。唯一 40 人近くの大規模な授業でした。英語、ヘブライ語、ラテン語と様々な言語のコーラルミュージックを歌いました。学校の式典や近所のチャペルでの記念講演など、発表する機会は多々ありました。一番大きなコンサートはキリスト生誕を祝う **Lessons & Carols** です。地域の人、保護者や先生方からなる数百人の観客の前で、赤いローブを着てクリスマスキャロルを歌い、**Holiday** の訪れを祝いました。

絵画：元々絵を描くことが大の趣味であり、より幅広い材料とテクニックを扱えるようになりたいという私の願いを叶えてくれたのがこの授業でした。自然の動植物や風景を、鉛筆であるがままに模写するというのが私の従来のスタイルでした。しかし、油性インク、スクラッチアート、チョークなど様々な **Material** で中世から現代までのいろいろなスタイルを描くことが求められました。間違いはすぐ消しゴムで消す、という完璧主義に慣れていて私にとっては『失敗』への不安が大きかったです。先生のアドバイスをもとに次々と作品を生み出していくうちに自信が付き、不安を克服できました。

水生生物学：普通の生物ではなく、水中の生命に特化したクラスでした。動植物が大好きな私は物珍しさに惹かれて受講しました。授業では前半に先生の講義があり、後半には実験や、学校の水槽の生き物のお世話をしました。キャンパスにある池の中の生態系を調査したり、ケイブコッド（マサチューセッツ州）の国立海洋生物学研究所で3日間実習をしたり、フィールドワークが多くてとても楽しかったです。

リモート学習について

Taft では **PowerSchool** という教育技術ソフトウェアを普段から使っており、オンラインに移行後も、主にこの **PowerSchool** のマイページから、各自受講している授業のホームページにアクセスをし、各先生が記載した課題に取り組む形で学習を進めました。科目別に課題の提出日が偏らないように工夫されていたのは良かったのですが、毎日時差のある中ライブ授業を受けるのは体力的負担が大きかったです。キャンパスで集うことは不可能であるものの、カウンセリングサービスの実施や、週2回の **School Assembly**（全校集会）を通じて **Taft School Community** の特徴である『温かさ』と『協力性』が持続できていた気がしました。

模擬国連：世界保健機構（WHO）COVID-19 特設委員会の会議を模擬しました。私はインド代表の役を任されたので、インドの感染者数、医療崩壊状況、経済についてのリサーチをし、外交関係を踏まえながら **Position Paper** という意見書を書きました。最終的には4回のライブ授業を通じて、模擬会議に参加しました。遠隔授業では場の雰囲気を読み取ることが非常に困難なことに加え、気の緩んでいる生徒も少なからずいたことから議論がなかなか進まなかったというのが現状です。それでも私は積極的に発言をしたり、法案を書き上げたりと自分ができる最大限の努力をしました。

水生生物学：週ごとに異なるプロジェクトに取り組みました。自分の好きな種類の魚の漁業についてポスターをオンラインで作成したり、身の回りの真水の生態系について定期的観察記録をつけたりと様々な種類の水生生物について学びました。以前のようにクラス総動員の大規模なフィールドワークはできませんでしたが、『近所の池の水をペットボトルにくんできて、微生物を調べる』など家でできる実験を先生が考えてくださったのでありがたかったです。

絵画

週の始めに課題の提示があり、週の終わりまでに完成させました。毎週水曜日に経過報告として、途中作品の写真をメールで送り、先生にアドバイスを頂きました。それを参考に作品を完成させ、完成作品の写真を先生に送りました。『ロイ・リキテンスタインのポップアートスタイルで有名な肖像画を描く』や『ダンボールで不思議なカツラとお面を作って家族につけてみる』など課題内容が大変 **creative** で、他の授業のオンライン学習の良い息抜きとなりました。

コーラス

課題曲の楽譜と音源をもとに個人で曲を練習しました。先生が指揮をしている映像に合わせて歌っている自分を録画し、技術の先生が全員のビデオを技術の先生が編集・合体させ、最終的には一つのミュージックビデオが出来上がりました。オンライン学習が行われていた2ヶ月の間で3つの作品が仕上がり、全学校関係者に共有されました。

今後の派遣留学生へのアドバイス

いくら長期の留学といえども、留学先で過ごす時間はあっという間です。より充実した時間を過ごすために、向こうでやりたいこと、達成したい目標などをいくつか考えておくことをお勧めします。しかし過度に予め作った目標に捉われず、渡航後は柔軟に行動することも大切です。いざ留学生生活を始めてみて、新しくやってみたいことを発見する機会もたくさんあると思います。そんな時は自分ができることの限界を恐れずに、どんどんフレキシブルにチャレンジしていきましょう。たとえ想像以上に過酷な道のりだとしても、『やらずに後悔するよりやって後悔する』方が確実に人間としての成長につながります。

以上

